

2026 年オハイオ州立大学 留学報告書

福島県立医科大学医学部 6 年 舟橋亮汰

目次

1. 留学の概要
2. 実習先について
3. 実習内容
4. 留学中の生活
5. 留学まとめ、今後の抱負

1. 留学の概要

私は福島県立医科大学の BSL 放射線治療科のアドバンス実習で 1 週間、アメリカオハイオ州に留学させていただきました。概要は以下の通りです。

留学先：オハイオ州立大学

期 間：2026 年 6 月 8 日～6 月 12 日

留学の目的

- ・最先端の放射線治療技術や研究に触れ、知識を深めるため。
- ・アメリカにおける放射線治療の診療、研究体制を学び、日本との違いや共通点を理解するため
- ・現地の医療従事者や研究者との交流を通して、国際的な視野とコミュニケーション能力を養うため

2. 実習先について

オハイオ州立大学

1870 年に創設されたアメリカオハイオ州を代表する州立大学です。16 学部を有する全米有数の総合大学で、約 6 万人以上の学生が学んでいます。メインキャンパスはオハイオ州コロンバス市に位置しています。医学部は、The Ohio State University Wexner Medical Center（以下 OSUWMC）を中心に教育・研究を行っています。OSUWMC は約 1,500 床を有する全米有数の大学病院であり、高度先進医療や研究を担うとともに、全米でも高い評価を受けています。特に放射線腫瘍学分野では、最先端の放射線治療技術や FLASH 放射線治療の研究が盛んに行われています。私たちは、この OSUWMC の放射線腫瘍学講座において、臨床および研究の実習を行いました。

3. 実習内容について

6/8

Physics overview

アメリカの物理学士について学びました。日本では医師が行う放射線治療計画の評価などをアメリカでは物理士が行うことに驚きました

Training Linac

教育用の Linac で放射線治療の IMRT や IGRT について学びました。ガフクロミックフィルムを用いて、イラストを放射線を用いて描くことで高濃度の放射線が実際に腫瘍近辺のみに充てることができると実感しました。

6/9

Clinic day

この日は 3 グループに分かれてそれぞれの先生に付いて回り、実際に放射線腫瘍

科医がどのような仕事をしているのか学びました。大きく日本と異なることはなかったが、気が付いた違いは患者の数です。見学した日は外来患者の数が午前中に5人でそれに加え、入院患者の放射線診断を行っており、先生は昼食をとる時間もなさそうでした。放射線腫瘍科医が日本と比べ多く在籍しているにも関わらずタスクが多いことはアメリカでは放射線治療が主流であることがわかった。

6/10

Physics overview/shadow

この日は実際に患者さんに治療を行う陽子線治療センターや FLASH 陽子線研究設備が完備されてる James Outpatient Care を見学しました。また、量子力学について英語でディスカッションを行いました。

6/11

Tour around goss and lectures

日本人のポストドクターがどのような生活、仕事をしているか、そして、留学について先生方がレクチャーしていただきました。先生方が使う研究室の見学も行った。設備の内容は日本と変わらないイメージではあったが、量は明らかにアメリカのほうが多いようだ。また、実験用の陽子線を発生させる装置が備わっていることは大きな違いであるという。

6/12

Campus tour

最後にキャンパスツアーを行った。施設には医療施設だけでなく大学生が使う教室、個人のロッカー、図書館からアメリカンフットボールのスタジアムまで幅広く備わっていた。多くの学生が利用しており活気で満ち溢れていた。

4. 留学中の生活

6人での留学であったため、6人で1つの Airbnb に宿泊しました。位置は大学から徒歩20分ほどでした。治安はよかったものの不安はあったため夜の外出は極力控え、夜の食事は自分たちで作るか、先生方と食事することが多かったです。食材は徒歩20分ほどのところに位置するスーパーへ行き一度に多く買いました。一つ一つの商品の値段は高く感じましたが、自炊をすると思った以上には安く済ませることができました。昼ご飯は病院の食堂で6人と引率の先生でいただきました。

移動は主に徒歩か Uber でした。Uber ではアメリカ人だけでなく、多くの国籍の方々と話すことができました。それぞれ英語の発音や国の文化、性格が異なっており多くの刺激を受けることができました。共通して言えることはとにかく優しく私たちに尽くしてくれたことです。目的地がずれていた場合や広い空港で私たちのチェックインの場所に近い場所へ臨機応変に適切な場所で降ろしていただきました。正直なところアメリカに対して少し恐怖心がありましたがこの1週間を通して払拭されました。

休日や放課後はシンシナティやコロンバス周辺の街並みを観光しました。一番感銘を受けた観光地はシンシナティにあるシンシナティ美術館での体験です。中にはゴッホやモネ、ピカソなどの有名画家の本物の作品が展示されており、日本では体験することができない感動を得られました。その他にも近くの市場でその地ならではの食事を楽しむだけでなく、積極的に現地の方々とコミュニケーションをとり、地域の文化や特徴について学ぶことができたことに加え英語力の向上にもつながりました。

5. 留学のまとめ、今後の抱負

今回の留学を通して、多くの学びと貴重な経験を得ることができました。このような機会を与えてくださった受入先の先生方をはじめ、留学実現にご尽力いただいた大学関係者の皆様、そして現地で温かく迎えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。また、留学期間中に互いに支え合いながら過ごした同行学生にも感謝しています。

今回の留学で特に印象に残ったことは三つあります。一つ目は、積極的に行動することの大切さです。実習では、自ら興味や意欲を示すことで、多くの診療やカンファレンス、見学に参加する機会をいただきました。言語や環境への不安はありましたが、まず挑戦してみる姿勢が、想像以上に多くの学びにつながることを実感しました。

二つ目は、英語力の重要性です。現地では診療は主に中国語で行われていましたが、先生方が英語で丁寧に説明してくださいました。しかし、医学英語の理解が十分ではなく、その日の内容を復習しながら知識を整理する場面も多くありました。今後さらに専門的な学びを深めるためにも、医学知識だけでなく英語力も継続して向上させる必要性を強く感じました。

三つ目は、異なる医療や文化に触れることの価値です。診療体制や医療者・患者間の関わり方、日常生活や価値観など、日本との違いを数多く経験しました。異なる環境を知ること、日本の医療の長所を再認識するとともに、多様な考え方を受け入れる柔軟な視点を身につけることができました。

今後は、日本での臨床研修や日々の診療を通じて知識と経験を積み重ねるとともに、英語力の向上にも継続して取り組みたいと考えています。そして、将来的には再び海外で学ぶ機会を得て、今回以上に主体的に学び、日本と海外双方の医療の発展に貢献できる医師を目指して努力していきたいと思います。